

## 小・中学校適正規模化実施計画(案)作成にかかる意見交換会

- ・開催日時 平成 24 年 8 月 3 日(金) 午後 7 時～9 時 10 分
- ・開催場所 下大津小学校 わくわくルーム
- ・出席者 保護者等 14 名

### 《意見集》

#### 質問1

学校では統合の話は一切出ていない。今日は、決まっていたものを説明するという会議なのか？ PTA の集まりで会長から、統合の話が進んでいるという説明はあったが、父兄に話がない。そんな状態で意見を聞くというのはおかしい。学校には PTA があるのだから、そこで話すべき。南中が合併するときも、戸崎地区では反対署名があった。説明もなくやろうという考えがおかしい。

#### 回答1

事務局として案もないまま、ご意見を聞くわけにはいかないということで、教育委員会としての方向性を出して、皆さんのご意見をお聞きしようと考えたものです。3 月の広報かすみぐらに学区審議会の答申を掲載した段階で、これはすでに決まっているのではないかと思われた方もいらっしゃったようですので、教育委員会としては、先ほど申し上げましたように、統合は推進したいという立場で、なるべく早く考えを皆様にお知らせするように努力してきたつもりです。反対のご意見もあるかと思いますが、ここから先どのように良い方向に持っていくかということで、子どもたちの安全・安心、より良い教育環境を作るためにどうしたらよいかというご意見をこの場でお伺いできればありがたいと考えているところです。

---

#### 質問2

学区について、現状の学区を考えているということだが、宍倉小学区は下稲吉東小に行った方がいいとか、南中学区だが北中に行ったほうが距離的に近いというところもあると思う。学区という枠を考えないで、子どもたちが通いたい学校を選択していくという考えはないのか？

#### 回答2

学校単位での統合を考える理由としては、現在の学区で一緒に学んでいる児童・生徒に、その環境を保って新しい環境に円滑に移行してもらいたいというのが一つポイントです。もう一つは、その学校を核として地域のつながりというのができていますので、その連携をとった上で、今回は一緒に統合してもらいたいところを最重視しています。確かに、宍倉の境界の部分で下稲吉東小学校や下稲吉中学校がすぐ近くにある家から宍倉小や南中に通っているという状況もありますが、その地域は今でも希望によって区域外通学を認めているところもあります。よって、今回の統合に伴って学区を見直して、その地域の指定校を下稲吉東小に変更はしませんが、近くに通いたいという希望がある方には、受け入れ側の状況を見て、可能であれば対応をします。

---

### 意見1

畑や田んぼに行って農作業をやっているときに、運動会の準備で鼓笛隊の練習を先生と子どもたちが一生懸命やっているのが聞こえる。そういうのを聞いていると、地域の人たちも元気が出る。やっぱり小学校というのは、地域のシンボルである。先ほどから推計などを見ていると、どんどん子どもが減るという暗い説明だが、実際にこの地域に住んでいる者からすれば、小学校というのは地域の住民の心の中に染み込んでいる。それが少子化や施設が老朽化しているということで統合というのは一般論なのだろうが、非常に寂しい。残してもらえるのならば、地域のシンボルとしてこれからも残してもらいたい。それが地域の力になる。エネルギー源になる。

---

### 質問3

丁寧に地域に説明をしないと、みんな分かったという気持ちにはなれないと思う。今日も、うちの地区は誰もいない。もしかしたら諦めているのか、時代の流れみたいなことで諦めて来ないのか、なぜ来ないのか私には分からないが、もっと来てほしかった。今後、地域の方々にもそういう説明を考えているのか？地域の方々との接点を今後どのように考えているのか？

### 回答3

今回は実施計画の案ということで、まだ計画になる前の段階で、まずは保護者のみなさんにご意見を聞いて、案をつくろうという趣旨ですので、まだ案もできていないと理解していただいて結構です。加えて、その地域の実情をご存知の区長さん方にもお声掛けをさせていただいて、いろいろ助言をいただければということで設定した説明会です。これは各統合対象校で行っていきますので、それらを通していただいたご意見などを、よく検討させていただいて、反映させられる部分を反映して、計画を作っていきたいと考えています。その段階で議会や地域にも説明をさせていただこうと考えています。その際には、保護者の皆さんはもちろんですが、地域の方も対象にして説明申し上げたいと考えております。具体的な時期としては秋口あたりを想定しています。その前に、まず保護者の皆さんに説明するのが筋だろうということで今回の意見交換会を開きました。

---

### 意見2

この地区は昭和34年に中学校がなくなり、平成20年に保育所がなくなった。農協もなくなった。それぞれが下大津地区のシンボルだった。今残っているのは小学校だけ。その小学校も統合でなくなろうとしている。今後の下大津地区を考えたときに、地域の人たちが暗くなるのではないか。子どもたちの教育云々ではなく、一般論としてそう思う。

---

### 質問4

地域に説明は行き届いていないのではないかと。また、これから地域の意見を聞くと言っているのに、こんな案をすでに作っている。どういうことか？

### 回答4

何の案もなしに説明することは難しいので、案を作りました。

---

**質問5**

では、意見を言ったら直してくれるのか？

**回答5**

なるべく対応します。

---

**質問6**

市長がいらないのはなぜか？

**回答6**

今回は教育委員会だけで来ました。今後、8月末に市長及び部長を交えた市政懇談会の場でも、この話は出てくるかと思えます。

---

**質問7**

PTAには何の説明もない。

**回答7**

一番大事な保護者の声を聴くという意味で今回の意見交換会を開いています。色々な意見やご要望をお聴きして、直す部分があれば、そこを含めて議会にも示しながら、最終的には地域の方にも説明させていただいて、合意がいただければ進めたいと考えています。

---

**意見3**

最終的に地域に説明ということではなく、もっと早い段階で広く意見を聴いた方がいいのではないか？私たちはこの地域が今日よりも明日が良くなることを願って生活している。それが逆になるような将来の姿では困る。

---

**質問8**

子どもたちの推計はどういう推計か？

**回答8**

住民基本台帳に記載されている人数を基に積算したものです。

---

**質問9**

戸崎原はどのように考えているのか？

**回答9**

戸崎原の皆さんにも今回の通知は出させていただきました。現在は、上大津西小と土浦五中に通っているということで、それに至る経過は通学路の安全性の問題があったと聞いています。今回、統合に伴ってスクールバスの運行等、検討することが出てくるので、もう一度、そういう部分も再考していただく余地が出てくると考え、ご案内しました。ただ、長い期間、区域外就学が地域に浸透している部分があるので、ご意見を伺って進めていきたいと考えています。

---

#### 質問10

児童・生徒が少ないという現状があるならば、土浦市に通っている児童・生徒を強制的にでもかすみがうら市に通わせるのが筋ではないか？ 地域の話はあると思うが、役所としてはそれが進むべき道なのではないか？

#### 回答10

現在、約 15 名が戸崎原地区から上大津西小もしくは土浦五中に通っています。過去には、下大津小への通学についてのご案内をした経過があったようですが、通学距離が遠いなど、安全面の問題があるようです。路線バスがなくなるときに、下大津小に受け入れるため距離等の調査をしましたが、当時の上大津西小の先生に伺った話では、戸崎原地区の方々が現状を変えることを望んでいなかったため、今はそのままとなっています。今後は統合することで学区も広がるため、宍倉のように戸崎原よりも遠くなる地区が出てくるので、一緒に市の住民として学校に通ってもらいたいという思いもあって、今回の通知を郵送しました。ただ、上大津西小も下大津小と同様に児童が少なくなっている現状があり、上大津西小の全校児童約 90 名の中で戸崎原地区の児童が約 10 名程度というように、上大津西小における戸崎原地区の占める割合が大きく、小さいコミュニティなので中々離れづらいということもあるのではないかと感じます。

---

#### 質問11

4 km未満でバスを出すことは難しいのか？

#### 回答11

4 kmというのが国の基準としてあるので、これを基準としていますが、下大津だけの問題ではないので、各校のみなさんが集まった検討委員会の中で、どのように運行したらみなさんが納得できるようなコースができるのかを詰めていくようになると思います。4 kmというのはスクールバスについての国の支援が受けられる国の基準ではありますが、必ずしもそればかりではなく設定している例も見受けられます。今後、相談しながら決めていくことになると思います。現在、美並小学校に通う児童の中にはすでに 3 kmを歩いて通っている児童もいますので、統合校に以前から通っていた児童は徒歩で、そうでない児童はバスでという線引きをすると、3 kmを歩く児童と 2 kmをバス通学する児童が出てくるというような難しい判断になると思います。色々な条件を皆さんで相談していただきながら、基準を決めていくしかないと考えます。

---

#### 質問12

どうやって 4 kmを決めたのか？

#### 回答12

国が以前から定めている基準です。ただし、地勢や気候、通学環境によっては市の教育委員会で基準を作っていることになっています。しかし、かすみがうら市ではまだ独自の基準を作っていないので、色々な条件を加味して基準を作っていかなければならないと考えます。よって、絶対に 4 km以上でなくてはならないということではありません。

---

### 質問13

統合して規模が大きくなると、小規模校の児童は萎縮してしまうのではないか？

### 回答13

中1 ショックなどと呼ばれるように、今でも小さい規模の小学校から中学校に進んだ時や中学校から高校に進学するときに同じような経験をしている問題だと思います。そういう意味では、いち早く一定規模の小学校の中で体験することで、進学時の移行がスムーズにできるのではないかと考えます。統合後の最初の児童生徒のフォローについては、各学校の先生方が統合校に異動したり、様々な交流事業を行ったりなど、スムーズに移行できるような方策をとっていきたいと考えています。保護者よりも子どもの方が新しい環境に順応しているという話を耳にしますが、細心の注意を払わなければならないところだと思っています。

---

### 質問14

4 kmは遠い。今の2 kmでも遠いのに4 kmなんて通わせられない。

### 回答14

4 kmというのは国の基準であって、地勢や交通事情などを勘案して市で基準を決めるということです。保護者からすると通学の安全性は気になる場所だというのは分かっていますので、皆さんのご意見を聞いてスクールバスを運行したいと考えています。

---

### 質問15

最初の話になるが、まず、地域に統合についての賛否を聞き、賛成が多いなら進めるというように、地域住民の興味を惹くような進め方をした方がよいのではないか？

### 回答15

今回は、賛成なのか反対なのかを判断する材料として使っていただく計画案だと考えています。色々な部分を検討していただくときに資料がないと難しいと考えました。

---

### 質問16

学校が少なくなれば通うのも大変で、子どもも親も心の準備が大変だし、地域との連携も難しくなってくると思うので、本当に最小限の統合、なるべく残したいという方向で、どうしても統合しなければならないという学校だけ統合させればいいのか？

### 回答16

今回考えている単位で統合した場合に2学級になるということで、この単位で統合を進めたいというのがこれまでの考えです。

---

### 質問17

なぜ、2学級でなければならないのか？

### 回答17

クラス替えができた方がいいと考えることからです。

---

#### 意見4

自身も小学生時代に1クラス40人の1学級だったが、普通に育ってきているので、2クラスないと競争や切磋琢磨できないということはないと思う。

---

#### 意見5

絶対に違う。自身も小学生のころ1学級だったが、同窓会を毎年やっている。それが2クラスになったら全然だめ。中学校などは全然集まりがない。1クラスが1番いい。まとまりがある。人数が少なくなるからしょうがないというのは認めるが、2クラスがいいという考えは絶対にだめ。

---

#### 回答(意見4・5)

昨今、6学年を一つの学級で過ごすことで、色々な関係が固定化されることの是非が問われていることもあります。1学年1学級では、クラス替えで心機一転という機会はありませんので、6年間固定化されることが一つのデメリットであると言われています。

---

#### 質問18

資料の中に小規模校のメリット・デメリットは書かれているが、学校が大きくなったときのメリット・デメリットはどうか？

#### 回答18

基本的には、逆に読み替えてもらえばいいと思いますが、現在目指しているのは適正な規模であり、1学年2学級程度の決して大規模な学校ではないので、すべてが当てはまるわけではないと思います。

---

#### 質問19

旧霞ヶ浦地区の小学校はどうしても2つでなければだめなのか？3つではだめなのか？中学校区をバラバラにして近場の学校と統合というのはだめなのか？

#### 回答19

継続して1学年2学級を維持することを考えると、2つの学校での統合では難しいと思います。また、中学校区をバラバラにすることは混乱が大きいと考えます。

---

#### 質問20

1学年で1学級しかないとケンカした場合などに孤立する場合がありますので1学年2学級のほうがいい部分もある。ただし、人数が増えることで学力面でのフォローが重要になってくると思う。指導要領に沿って指導しているとは思いますが、学校によって力を入れている部分が異なると思うので、それによりいじめが発生することがあってはならない。また、中学校3年の時に統合を経験する生徒たちのケアをしてもらいたい。

#### 回答20

中学校を例にすると、国語・算数・理科・社会・英語の先生は複数配置したほうがよいと考えています。先生の手を助けることも大事ですが、1人の教員が中学1年生から中学3年生までの全生徒に教えることは非常に難しいと考えます。特に新任の教師などは、ほかに同教科の先生がいれば、教材研究をしたり、教え方を工夫しあったりして指導力を高めることができます。それが生徒たちの学力に跳ね返ることになります。また、複数学級があるということは、1つのクラスではどうしてもうまくいかない場合に、次の年のクラス替えに期待ができます。特に人数が少ない中で仲間はずれになることは非常に辛いことだと思います。もし、女の子が3人しかいないクラスの場合、2人の子がくっついてしまうと、もう一人の女の子は辛い思いをします。それが、もっと人数が多ければ、誰か仲間ができるかもしれない。特に女の子は人間関係での苦労があると思います。少人数であるがための苦労があると思います。ですからクラス替えができるということは気分も友達関係も一新できるということだと思います。

小学校においても、2学級ある場合は新任とベテランの先生が組むことが多くなります。そうすると、学級経営について教わり、協力し合える状況ができて、先生にとってもよいことだと思います。1学年2学級になると、低学年ブロックといって4人の先生で話し合いをすることが多くなります。そうすると、4人で1・2学年の児童を見ることになりますので、1つの学級を1人の先生で見ることに対し、4人の先生の目線で様々な角度からその学級を見るということになります。